

リレーエッセイ「心に残るあの句・あの時」①

俳句が家族の絆をより深くする

足立区立鹿浜第一小学校 知念哲夫

◆父の日に父の星座が出ているよ

三年生のN君の俳句です

ひよっとしたら、お父さんは亡くなっていて星座になっているのかな?と思いました。有名な「天国はもう秋ですかお父さん」の句と同じ「父恋の句」かなと思っただけです。N君に聞いてみると、お父さんさんもN君も共に星が好きで、よく望遠鏡で星の観察をするのだそうです。

この句は現代俳句協会のシユニアコンクールで優良賞をいただきました。表彰式にはお父さんも一緒に出席してくださいました。この受賞でますます天文好きになったそうです。俳句は家族の絆をより深めてくれます。小生もN君を真似て、今年卒を寿迎えた父に一句。

父の日の父と駒落ち将棋かな哲庵



俳句勉強会紹介

俳句作りの楽しさを私たち教師も体験する活動が、本会の「俳句勉強会」です。毎月第一木曜日、午後六時半〜八時、江東区立八名川小学校で行っています。次回以降は、

◇十月三日(木) ◇十一月七日(木)

◇一月九日(木) ◇二月六日(木)

◇三月六日(木) に実施いたします。

※十二月は学校俳句交流会(十二月七日

(土) 午後一時半〜八名川小)です。

六月俳句勉強会高得点句

君を待つ古本カフェや時計草 阿部郁恵

ひとりじゃないということばヤホール 近藤 孝

留守番を頼まれている夏の蝶 山本純人

九月俳句勉強会高得点句

ゴールなら自分で決める綱雲 今野龍二

おしゃべりなママ後ろから秋の蝉 松本芳明

五つほど嘘をならべて秋暑し 山本純人

秋の風シーソー相手を待っている 阿部郁恵

【編集後記】

夏は恒例の宿泊研修会を行った。総勢十三人で宮城を訪れた。南三陸の現状を目の当たりにし、一同、言葉もなかった。高野ムツオ先生の温かい指導を受け、目から鱗を何枚も落としたり。大徳寺の皆さんには温かく迎えていただいた。寺井先生の能を堪能させて頂いたことも貴重な経験だった。

夏の経験はいつも私たちにかけがえない宝物をくれる。私たちは夏が訪れる度に年を重ねていくのだと思う。貴重な経験と、それを支えてくださった出会いに感謝したい。

それにしても毎年そうだが、夏休み中にしてしまうと考えていた仕事のほとんどは手つかずのままとなった。

着地点目測誤認休暇果つ 山本 新

【日本学校俳句研究会】

<http://gakkohaiku.sitemix.jp/>

連絡先:江東区教育委員会学校支援課

小山正見 oyamamasami@gmail.com

学校俳句研究⑤ 発行日 平成二十五年九月二十三日 / 日本学校俳句研究会

◆代表者☆小山正見

◆編集者☆山本新 松本芳明 下山桃子

学校俳句研究 No.5

☆日本学校俳句研究会☆会報 平成25年9月

俳句で培う「認め合い・学び合い」の風土

日本学校俳句研究会 幹事長 山本 新

子供たちが俳句に親しむことは、自然の素晴らしさを再発見し、それを日本語の美しい調べに乗せて表現する言語活動に他ならない。発見や感動を十七音で表現する創作活動である。

しかし俳句にはもう一つの側面がある。それは「句会」で養われる「伝え合い」や「学び合い」を主軸とした言語活動である。

俳句はもともと「俳諧の連歌」の「発句」が独立したものである。連歌は「五七五」に「七七」をつなぐ座の文芸である。座の文芸で大切なことは、「相手を大切にすること」、「相手への気配り」等の相手意識である。それらは当然「おもてなし」の心にも通じるものである。

教室での俳句指導の中核に「句会」を取り入れたい。すでに実践している多くの学校からは、「学級の雰囲気は温かくなった」、「子供たちがお互いの思いを伝え合えるようになった」等の声を聞く。

なぜ句会が学級の雰囲気を温かく変えるのか。それは小学校や中学校の多くの学校で実践される「句会」が、認め合いや共感をベースにしているからである。句会では自分が気に入った俳句を選んでお互いの句の良さを伝え合う。「様子がよくわかる」「表現が工夫されている」「たとえが上手」…等のたくさんの良さが出される。それを聞いた他の子供も「なるほど、そういう見方もあるのか」と、新たな発見が生まれ、「わかる、わかる。私もそう思う」といった共感の空気が教室を包んでいく。また、友だちの俳句から新たな物語が紡がれることもある。教室句会では、そういった関わり合いの中の学び合いがあちこちで生まれ、それが学級の相手を大切に作る風土を醸成していくのである。

「先生、また、句会、やりたい！」句会を終えると、子供たちは一様にそう言う。

(足立区立千寿小学校教諭)

夏季宿泊研修会ルポ

「芭蕉も歩いた」「登米」と、豊稔の「南三陸」をめぐる

【八月十七日（土）】

待ちに待った日本学校俳句研究会の夏季宿泊研修会の幕開け。八時に東京駅に集合し、新幹線できざ、くりこま高原へ。出発するやいなや、メンバーは俳句帖と歳時記を片手に俳句作り。私も、会話を楽しみなながらも、窓の外を見て頭の中をフル回転させていく。

夏雲や旅の葉に書く俳句

山本 新

メンバーの男性陣には、アロハシャツが三名いたことから…、

アロハシャツ縦に並んだ指定席 大熊 拓

俳句作りに打ち込むうちに、気付けば長いトンネルの先に、仙台平野が広がっていた。

秋の田の真ん真ん中の新幹線

阿部 郁恵

色づきて仙台平野の稲穂の田

米田かおる

くりこま高原駅に到着し、一行はマイクロバスに乗った。地元のガイドさんの案内を聞きながら、長沼へ。ここは、迫町の中央部に位置する周囲約二十四キロメートルもある県内最大の湖沼。小型遊覧船に乗って、蓮の咲く極楽浄土めぐりをした。



例年よりも咲いている蓮の数は圧倒的に少ないとのことであったが、天国に繋がっているかのような感覚にも思わせてしまう遊覧船での一時でありに励む。

饒舌な極楽浄土の蓮見船

小山 正見

昼食は、「味処 あらい」にて、登米名物油麩井と、はっと汁をいただいた。はっととは、江戸時代から伝わっている郷土料理である。口の中で広がる柔らかな感覚は今も鮮明に覚えている。

お腹も満たされたところで、一行は宮城の明治村登米町歴史資料館へ向かった。村の中には、5つの資料館があり、今回は警察資料館・教育資料館の二か所をめぐる。

教育資料館は、旧登米高等

尋常小学校校舎。瓦葺屋根の洋風の雰囲気漂わせる校舎は、明治二十一年に建てられたものだ。ここで一行は当時の教室に入り、ガイドさんの



素晴らしいオルガン伴奏のもと、「ふるさと」を歌った。様々な年代の集まった一行であるが、皆でひとつになれた気持ちになった瞬間であった。

いよいよ一行は、伝統芸能伝承館の森舞台へ。ここには、本

格的な能舞台があり、今回は特別に「心の癒しプロジェクト」の能楽師・笛方の寺井宏明先生等をお招きしての舞台であった。舞台の周りは竹林に包まれており、雨のように蝉の音が響き渡る中で、この舞台だけは別世界のように静かな雰囲気の中で、演目「猩猩」を観賞した。

竹刈るやこの世を離れ笛流る 松本 芳明

夕陽の沈む頃、一行は宿

泊をする「ニュー泊崎荘」

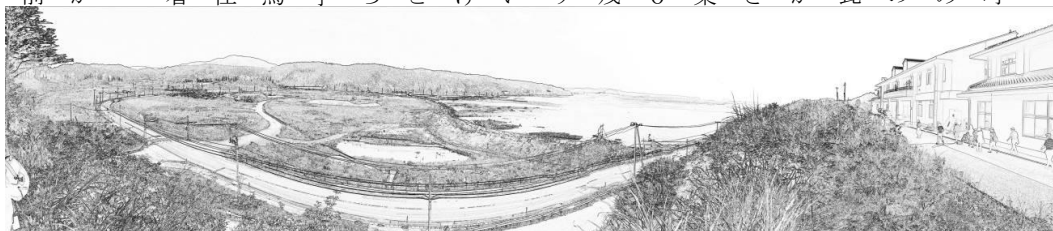
へ。震災の影響のあった宿であるが、温かなおもてなしを受け、我々はこのびのびと、夕食の席で句会を行った。



（葛飾区立木根川小学校 木原 小百合）

【八月十八日（日）】

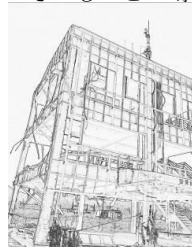
今日はいよいよ南三陸町の被災地をこの目で確かめます。町に入る海岸沿いの道、岬一つ越える度に、瓦礫の山や津波の破壊の後がまだ残っています。被災された後藤さんに戸倉中を案内してもらいました。20mの海拔があるのに窓に残る波の跡、体育館への渡り廊下は大きくねじ切れています。ビルの残骸2つだけを残して、何も無い荒地となった街の中心部を見下ろしました。遠く、戸倉小学校の子達を救った神社の鳥居も望めます。高台に永住可能な新しい街の開発は着工すらできていない一方、役に立たない堤防は基礎が作られていました。目の前



を内陸に流され、また沖に持っていかれる我が家を見た後藤さんのお話。1.5kmを3時間掛けて避難し、自然の家で食べたおにぎりが人生最高の味だったとお話。忘れられませんか。防災の中心になるべき防災対策庁舎を高台に作らなかったことなど、今回の災害は人災だと言いつつおられました。日本の未来を憂うる重い言葉の全てが自分たちに託されていると感じました。

午後は期待していた高野ムツオさんの講演。5年前まで仙台市で中学校の先生をされていました。つくられる俳句の精神性の高さとはまた違つて、とても分かりやすく優しくお話をしていただきました。プレゼンを用意されて、「柿くえば鐘がなるなり法隆寺」の鑑賞を通して、俳句の本質についてのお話をされました。鑑賞のあり方は①読み手の創造性の尊重②背景を知る③季語の世界の尊重④たくさん俳句と出会うことでした。私たちのつくった句を例に一物仕立てと取り合わせの違いについてのお話がありました。教える立場としては①テーマや作る目安を与えること（例えば、卒業など）②季語などの情報を与える③作る機会や場を与える④約束にとらわれすぎない⑤価値観

の多様性を尊重する⑥指導者としての価値観を持つという教師としての在り方も教えて下さいました。その後の句会では驚いたことに、投句された全部の句にコメントをもらいました。



最高点の句にも

朝顔は番地がわりに咲きにけり 山本 純人

「は」が「だけ」の意味で強い限定なので「の」にしたらどうだろう。迷った時の「の」というお話がありました。

牙むいたあの日を忘れて夏の波 舟山 由美子

中の8音は特別な意図がある時だけにしたい。約束にとらわれ過ぎてはいけませんが、中7は一番大切だとお話でした。「あの日忘れし」

小学校4年生で黒板に書いた句をほめられたことが原点だと語っておられた高野ムツオ先生との時間はあつという間に過ぎました。

夜の交流会では高野先生の句をお借りして穴埋めクイズ。もちろん正解者はいませんでした。

（足立区立鹿浜第一小学校 松本 芳明）